

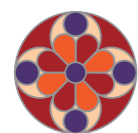


特集 世界文化遺産登録5周年

長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産「黒島の集落」

世界遺産のよもやま話

平成30年7月4日、世界文化遺産に登録された「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産 黒島の集落」はことしで5周年を迎えます。今回の特集では、世界遺産の登録から現在に至るまで、「地域」「信者」「観光」のそれぞれを代表する方から伺った当時の苦労話やエピソードなどを紹介します。ことしの夏、祈りの島「黒島」を訪れてみませんか。



島民一体となって「また来たい」と思ってもらえるまでに



黒島地区自治協議会
会長 濱田 次義 さん

「黒島の集落」は、私たちにとっては生活の一部です。島民は世界遺産の登録前も後も変わらず、今までどおりの生活を送っています。

ただ、世界遺産に登録された当時のことを思い出すと、やっぱりうれしかったですね。登録に向けて、さまざまな問題や課題について、島民だけでなく行政やその他多くの皆さんと協力し合って乗り越えてきましたからね。

若い人の減少や高齢化など、黒島を取り

巻く環境は厳しい面もありますが、世界遺産登録から5周年を迎える今に至るまでみんなで助け合いながら頑張ってきました。

例えば、黒島には観光客が利用できるトイレが少ないので、観光協会や各商店などが「おもてなしトイレ」という取り組みを始めました。また、島民や地域おこし協力隊の協力を得ながら、道路の清掃を行っています。島を訪れた人たちが「また来たい」と思ってもらえるようなまちを目指していきたいです。 (取材日 4月26日)



おもてなしトイレ



道路清掃



小学生による 蕨展望所の植栽作業



涙を流して喜ぶ信者を見て工事の苦勞が報われました



黒島天主堂耐震・修復工事
関係者 信者代表(当時)
ひかすたに
日数谷 千秋 さん

2019(平成31)年2月から始まった黒島天主堂の耐震・修復工事は約2年で終了し、2021(令和3)年2月から見学ができるようになりました。

当時、私は信者の代表としてこの工事に関わりました。工事の目的は「耐震対策」と「保存修理」で、工事を終えた教会は構造的に強くなりました。教会は国の重要文化財に指定されているということもあり、基本的に装いは変わっていませんが、美装が施されました。私の想像ですが、教会内部の様子は1902年の完成当時に近い状態になったのではないかと考えています。

今回の工事では、いくつかの発見がありました。東側玄関の石段を解体中に踏石の下からはロザリオ、西側玄関付近からは初代黒島天主堂の敷地石垣と考えられる古い石垣が出土し、さらには教会内部に飾っている「十字架の道行」の額の中からおそらく湿気取りの

目的で入れていたであろうフランスの当時の新聞が見つかりました。

工事が終わった後、光り輝く祭壇やきれいになった聖人の御像を見た時は何とも言えずうれしかったです。また、椅子などの備品などを運び入れる前の、がらみどりの教会堂内に差し込む光の美しさには感動しました。

工事が完了した直後の教会を目にした信者の中には、涙を流して喜んでいた人も多くいました。そんな様子を目の当たりにした時、「大変だったけど工事をして良かったな」と思いました。

黒島天主堂がさまざまな形で紹介され、少しでも多くの人に関心を持ってもらうことができれば大変ありがたいです。ただ、教会は信者にとっては大切な祈りの場です。観光で訪れる人には、そういう部分も理解いただいた上で見ていただければと思います。

(取材日 4月27日)



耐震・修復工事が終わった黒島天主堂内の様子



埋納ロザリオ



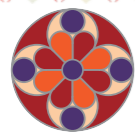
初代天主堂の石垣



額の中から見つかった当時の新聞

黒島天主堂の部材を剥がした様子など、普段見ることができない工事の記録映像を公開しています。





御朱印やグリーンスローモビリティを活用し

おもてなしの心でお迎えます



黒島観光協会
理事長 山内 一成 さん

世界遺産への登録に向けて動き始めた当時、黒島には観光客の受け入れを行うための組織がありませんでした。そこで「黒島観光協会」を立ち上げることにりましたが、とにかく大変でした。何をどうしたらいいのか、分からないことばかりでしたので、平成26年1月に島の活性化の取り組みに賛同してくれた人たちに月に何回も集まってもらい「NPO 法人とは」の勉強会を行い、平成27年1月に法人を設立することができました。各分野の人たちにご協力いただいたおかげで今の観光協会はあります。皆さんには本当に感謝しています。

もともと「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」として世界遺産への登録を目指していましたが、潜伏キリシタンに価値の焦点を絞る形で構成資産が再考され、現在の名称「長崎と天草地方の潜

伏キリシタン関連遺産」になり、世界遺産に登録されることとなりました。

今振り返ると、この再考する期間があったことが当協会にとってはチャンスだったと思います。観光客の受け入れを行う施設「黒島ウェルカムハウス」や島内での移動手段を確保するための「レンタサイクル」などの整備、また、お土産品の充実を図ることができたのはこの期間があったからこそです。

世界遺産に登録された1年目、本当にたくさんの人が黒島に来ていただきうれしかったです。ただ、コロナの影響で社会や人の動きが止まってからは、島を訪れる人が大幅に減ってしまいました。寂しい気持ちもありましたが、コロナが落ち着いてお客さまが戻ってきた時に何があったらいいだろうかと考えました。

そこで、まず始めたことは「御朱印」でした。「黒島天主堂」「黒嶋神社」「興禪寺」をモチーフにした御朱印台紙を作り、黒島で撮った写真をウェルカムハウスで見せてくれたお客さまに、御朱印台紙を無料でお渡しするという取り組みです。ただ、そのお客さまとご縁が1回で終わってしまうのももったいないので、黒島天主堂の「晴れバージョン」や雨の日限定で配付する「雨バージョン」、季節限定で配付する「春夏秋冬バージョン」なども作って、繰り返し黒島を訪れてもらう仕組

みを取り入れています。

次に島内の移動手段として新たに導入したのが「グリーンスローモビリティ」です。令和3年12月から電動低速で公道を走る移動手段として運用を開始しました。現在、黒島港と黒島天主堂の間を無料シャトル(定期便)として運行している他、レンタカーとしても利用していただき、ゆったりとした時間が流れる「黒島の集落」を過ごすように巡ることができます。

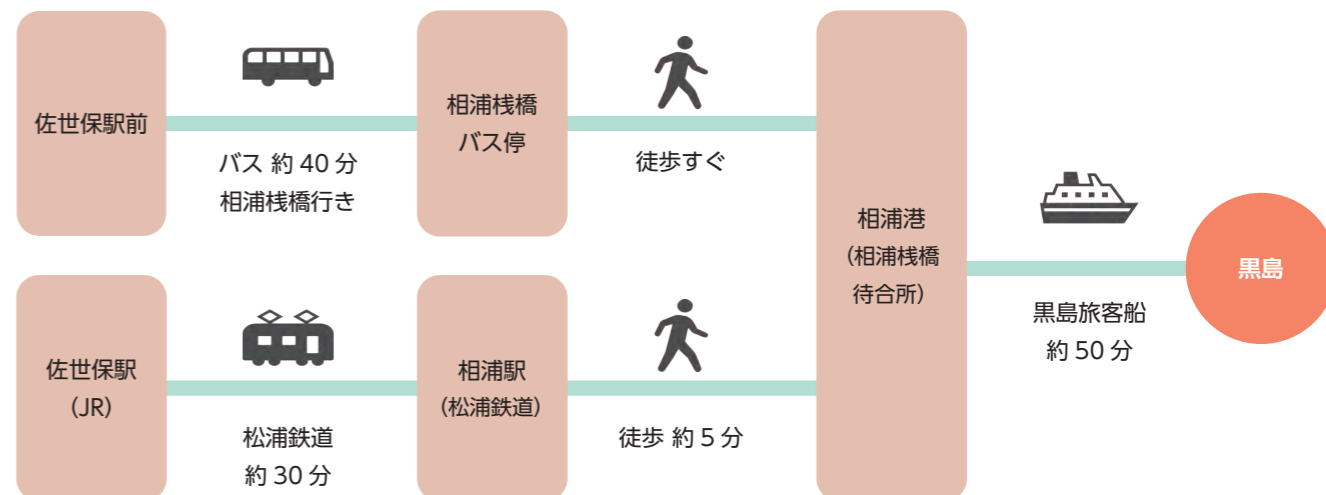
今一番困っているのは、観光客を案内するガイドが減ったことです。一番多い時には17人いたガイドも今は7人しかいません。コロナによって観光客が減り、ガイドの活躍する場が失われてしまいました。今後、新たなガイドを育てることも私の使命だと思っています。子どもたち(島内の小中学生)に黒島の歴史や文化「ふるさと黒島学」を学校の授業の一環として教えていることもその取り組みの一つです。

ことしの7月4日で、世界遺産登録から5周年を迎えますが、あっという間の5年間でした。コロナによるさまざまな制限が解除された今、世界遺産登録当初のように多くの観光客の来島を期待し、島民一人一人が島を訪れる観光客をおもてなしの心を持って迎えられるよう、力を合わせて取り組んでいけたらと思っています。

(取材日 4月26日)



黒島へのアクセス



教会見学時のマナー

教会は信者の皆さんにとって大切な祈りの場であり、観光施設ではありません。観光を目的として訪問する際には教会でのマナーをよく守り、お互いが気持ちよく過ごせるように心掛けましょう。

- 教会内では脱帽し、極端に肌を露出した服装を避け、静かに見学してください
 - 飲食、喫煙、飲酒は厳禁です。また、教会内にある物には触れないでください
 - 柵内、内陣(祭壇)は特に神聖な場所ですので、絶対に入らないでください
 - 教会内での写真撮影は禁止です
 - 帰る際は扉を閉めてください
 - ミサや冠婚葬祭時には、教会内の見学をお断りする場合があります
 - 教会には見学者用のトイレはありません。事前に済ませた上でお越しください
 - 見学のお礼として、献金箱への寄付をお願いします(寄付は、文化財(教会)の保護に生かされます)
- ※教会内の見学を希望する際は、事前に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産インフォメーションセンター(☎095-823-7650)」への連絡が必要です



長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産
インフォメーションセンターホームページ

御朱印帳(有料)と御朱印台紙



グリーンスローモビリティ



黒島ウェルカムハウス

み7みかー「世界遺産よもやま話」

黒島観光協会
ホームページ

市ホームページ
(世界文化遺産)

特集に関する問い合わせ 文化財課、観光課 ☎24-1111